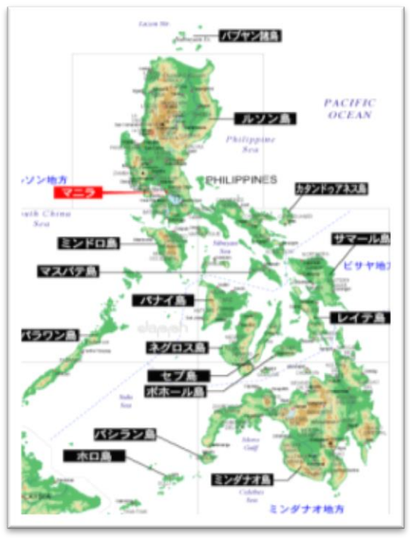
2014(平成26)年度　関西福祉大学

フィリピン・スタディツアー報告



私は，フィリピンの教育事情について知りたいと考えこのスタディツアーに参加しました．
フィリピンでは，つめこみ授業が多く日本のように生徒に考えさせるような授業はまだ行われていませんでした．その理由は，1クラスの人数が多いことや授業時間が午前と午後の二部制になっており時間がないことが原因となっていました．
しかし，フィリピンでは第一言語がタガログ語にもかかわらず英語が日常的に使われ，テストでも英語が使われているため，英語の必要性を生徒自身が理解しているようでした．
日本では英語が小学生から総合的な学習で学ばれていますが，フィリピンのように生活をするうえで英語の必要性を教えることはできていません．
私は，これから海外で活躍する子どもたちを育てるために，教師にも英語力が必要と痛感したので，英会話に通うことにしました．
海外研修に参加することによって世界の状況や考えが変わり自分の思い込みによる情報だけでなく，自分の目で見て考える必要性を学ぶことができました．また，たくさんの方々に支えられてこの研修を終えることができました．これを糧に日々勉強し，立派な教師になりたいと考えています．

梶原　健太

研修の目的

①フィリピンの福祉・看護・教育の現状についての理解を深める．
②福祉施設および病院のスタッフ，教育機関等の利用児者や大学生との交流を深める．
③貧困地域で暮らす子どもたちの現状と支援についての理解を深める．
④フィリピンの歴史と文化を学ぶ．

研修期間

2015年（平成27年）3月2日（月）～9日（月）

研修参加メンバー

発達教育学部：梶原 健太（1年次），菊池 翔太（1年次）
看護学部：柴 幸歩（1年次），平尾 紗季（1年次），福岡 彩美（1年次）
教員：金沢 緑（発達教育学部），井田 歩美（看護学部）

研修１日目

9時55分：関西国際空港出発，13時05分：マニラ国際空港着
KSEMカフェにてカンルンガンについてオリエンテーション

カンルンガンって？
路上で暮らすストリートチルドレンとその家族への教育支援，食糧・薬品などの物資支援を目的としたNGO団体

KSEMカフェではカンルンガンで育ち，自立した子どもとストリートチルドレンの人がカフェのスタッフとなり，カフェラテアートを披露してくれました♪

私は，考え方や慣習などが及ぼす看護ニーズへの影響に興味があり，「日本とフィリピンの看護ニーズの違いを知ること」を目的として今回の研修に参加しました．
フィリピンの医療現場では，十分に整備されていない環境の中，あるものだけを用いて医療が行われていました．ケアの質より患者の数に対応するので手一杯になっているという印象を受け，いかに私たちの国が恵まれているかを感じました．
また，国立フェベリア病院で行われているミルクバンクという活動を見学しました．母乳が薬のようなものとして扱われ，重宝されていることを知りました．母乳が癌などの病気に有効であることは知られており，先進国では同じような成分の薬の研究・開発が行われています．先進国に追いつくべく母乳を薬として活用しているフィリピン医療の向上意欲の高さを窺い知ることができました．
国が違えば，考え方も環境も異なるのは当然のことですが，今回の研修は患者さん一人ひとりに合わせた看護を提供することの重要性をあらためて感じるよい機会となりました．

柴 幸歩

研修２日目

TRACE Collegeを訪問し，附属小学校の英語での授業を見学したり，学生同士，マンツーマンでの交流をしました．

TRACE College看護学部の学生さんが実習を行っている病院にも立ち寄りました．

研修３日目

マンガハン放水路岸の不法占拠者居住宅を視察し，巡視船船上より放水路建設の様子を視察しました．

JICAマニラ事務所を訪問し，ブリーフィングを受けました．

マンガハン放水路は日本の援助のもと整備されています！

私が今回このスタディーツアーに参加したのは，フィリピンの看護カリキュラムについて知りたいと思ったからです．
地方の病院を訪れたとき，ベッドの回転率を上げるために，出産翌日から歩行訓練をさせたり，２人で１つのベッドを使用したりなど，少ない器具・設備の中での看護が実施されていました．
トンド地区のスラム街を訪れたときは，まさにテレビで見るような状況が広がっていました．発展しているところでの医療は充実していますが，トンド地区のような場所では，衛生状態も非常に悪く，まだまだ医療や看護が遅れているところがあると感じました．
大学の看護学部の実習室では，民家を想定した演習室や，少ない器具や設備で看護を提供する学習が行われていました．
このカリキュラムが，地方の病院やトンド地区などの貧困地区のような，設備が乏しいところでも，工夫して看護を行えるような看護師の育成につながっていると感じました．
日本でも，もちろんのことですが，大学，地域，病院が，系統的に看護の発展・改善に取り組んでいると学びました．

福岡 彩美

研修４日目

パナイ島イロイロ市アマシン小学校，特別支援学校を訪問し，授業の見学や支援学校の生徒との交流を行いました．JICA（国際海外協力隊）より派遣されている隊員の方の活動を見せていただきました．

僕は今回の研修を通して，人と人とのつながりや関わり，コミュニケーションのとり方の大切さを改めて実感しました．研修では３回子どもたちと触れ合う機会がありましたが，もちろん言葉は通じずコミュニケーションをとるのがとても大変でした．しかし，一生懸命伝えようとすると相手も応えてくれて少しずつコミュニケーションがとれるようになり，お互いの心が通じたような気がしました．トレース大学での学生交流でもお互いが分かり合おうとする気持ちが現れ，コミュニケーションをとることができたと思います．人と関わる上で相手を理解しようとする気持ちはとても大切であると改めて考えさせられました．
教師を目指すものとして人との関わりやコミュニケーションのとり方はとても重要になってくると思います．児童とのコミュニケーションはもちろん，保護者や教師同士の連携もとても大切になってくるので僕は今回の経験をいかし，人との関わりを意識して今後の生活に役立てていきたいと思いました．

菊池　翔太

研修５日目

ドント地区の貧困地区（元ゴミ山のスラム街）にある金光教平和活動センターが支援する就学前教育施設を訪問しました．

午後から，国立フェベリア病院および病院内にある母乳バンクを見学しました．

研修６日目

カンルンガンのベニテスホームで昼食のカレー作りをしました．その後は，ホームの子どもたちや関西福祉大学奨学生との交流を行いました．

風船や折り紙などのアクティビティーを用いて楽しく交流しました

私のフィリピンのイメージは，生活環境が日本よりかなり発展が遅れているというものでした．例えば，衣・食・住といった環境や学習状況に関してです．
衣・食・住では，日本も生活の格差はありますが，フィリピンの方がより格差が大きいように感じました．
特に住環境については，ごみ山のような所で多くの人が生活していました．その為に衛生状況は悪く，感染症が流行れば瞬く間に広がるだろうと感じました．さらに，フィリピンは日本とは違い水道水が浄化されていないため日本人は飲むことができません．それはまだフィリピンが下水や上水の整備が遅れているためと思われます．しかし現在日本の企業が支援しており，数十年後には改善されるでしょう．日本の企業がフィリピンに多くの支援をしていることはフィリピンに行ってから知りました．
当初私のもっていたイメージでは，フィリピンの人たちがどのような格差解消差を持っているのかはわかりませんでした．しかし，日本が支援をしていたり，フィリピンの方々も今一生懸命生活の質が上がるように工事を進めるなどの努力をされていました．それはフィリピンに行かなければ分からないことでしたし，想像もしていませんでした．そういう部分で学ぶことがあり，今回の研修に参加してよかったと思います．

平尾　紗季

研修７日目

フィリピン富裕層が多く居住するマカティ地区の視察とショッピングをしました．

研修最後の夜，JICA専門官，ODA参加企業の責任者の方に参加していただき，学びの発表会を行いました．

フィリピンの貧富の差を象徴するような町並みでした

研修8日目

14時25分：マニラ国際空港出発，19時20分：関西国際空港着
８日間のスタディツアー無事終了！